



THE SUGGESTION

提 言

中小企業組合総合研究所機関紙

発行所

一般社団法人 中小企業組合総合研究所

〒533-0032 大阪市東淀川区淡路3-6-31 協同会館アソシエ2F

電話 06-6328-5577 FAX 06-6328-5588

URL http://www.kumiaisouken.com/

4月1日

第219号(2024年)

提言・約束事

1. 基本的には読者参加型の提言新聞とします。併せてニュース解説や話題を提供します。
2. 投稿の場合、社会規範に反するものは受け付けません。原稿掲載はスペース等の関係もあり編集者の判断にお任せ下さい。

入植型植民地主義からグローバル資本主義の危機を読む グローバル戦争の危機に直面して

大阪労働学校・アソシエ学長 斉藤日出治

ロシアのウクライナ侵攻から2年が経過した。2年前に世界に衝撃を与えた戦争は、今では人々にいら立ちや不安、困惑を与えている。戦争終結の見通しが得られないからだ。さらに昨年10月にイスラム組織ハマスがイスラエルへ武力攻撃を行なったことで、イスラエル軍による報復を招き、中東でも戦渦が広がっている。世界は不透明性と不安定性に包まれている。これからの世界秩序がどのようになるのかを見通すことは難しい。

現在東欧と中東で進行している二つの戦争は、ポスト冷戦下で急進展したグローバルゼーションがもたらした帰結である。そしてこの国も、「台湾有事」の掛け声のもと「敵基地攻撃能力」を公言し、沖縄・奄美の南西諸島に向けて自衛隊の軍事力を傾注させ、南西諸島のミ

争状態を引き起こしたとこの逆説に、わたしは目を凝らすべきだ。戦争に向けて音頭取りをしているのだ。歴史が終焉し平和な市場競争が世界を支配するとされたグローバルゼーションの展開こそが、このようなグローバルな戦



イスラエルの攻撃でガザ地区では1万4000人以上の子供が命を落としている

先住民の民族浄化

昨年10月のハマスによるイスラエルの襲撃は、イスラエルによるガザ地区への報復的攻撃をもたらした。すでにパレスチナ人の死者は三万五千人を超えている。そのうちの四〇％は四歳以下の子どもである。このような民間人の無差別殺戮は、ジェノサイド＝民族浄化と言っ

ハマスとイスラエルとの軍事衝突を双方の憎悪と報復のくりかえしとみなしてこの悲惨を傍観視するとはかたがたに、現代アラブ文学者の岡真理さんはこの軍事衝突を生み出しているのは、イスラエルという入植型植民地国家による先住民の民族浄化であると反論する(『ガザとは何か』大和書



ユダヤ人であるという事だけを理由にナチスは600万人もの命を奪った

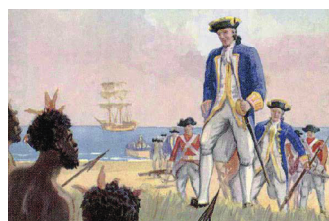
この指摘は、現在の世界が抱える戦争状態がどこに根差しているのかを考へるうえで、貴重な示唆をあたえてくれる。かつてのナチスによって行

入植型植民地主義

イスラエル国家による入植型植民地主義の展開は、米国、カナダ、オーストラリアといった先住民の住む地域にヨーロッパから入植した西欧人による近代近代文明の統治様式

を意味する。だが、入植型植民地主義は、欧米による非西欧地帯の統治様式であるだけでなく、近代資本主義のグローバルな展開であるこんにちの世界のあり方を語りだすものでもある。

入植型植民地主義とは、外部に対して発動される権力であるだけでなく、自己自身の内部に向けて行使されるものからである。それは、地域の伝統的な諸関係と生態系、さらには内面的な精神や身体に対して行使される近代的なちからの作用としてとらえるべきものである。つまり、われわれが生きている近代世界そのものが入植型植民地主義によって構成されていると、いうことを再認識する必要がある。



キャプテン・クックの上陸に始まるオーストラリアの植民地化

第一に、入植型資本主義は、自然の生態系を奪取し私的に利用すると同時に、自然の生態系に意図せざる影響をもたらす。森林・土壌・水質などの自然環境の大規模な破壊は、五世紀以降の入植型植民地主義がもたらしたものであり、一九世紀以降の化石燃料の大量消費による地球の温暖化はその延長線上にある。入植型植民地主義は、ネズミ、昆虫、細菌などの生命体の予期せぬ侵入をもたらし、生態系をかく乱した。世界を席巻したコロ

第三に、それゆえ他人の不払い労働を無償で領有する資本・賃労働の階級諸関係は、異民族を浄化し収奪する人種主義を、そして、社会の再生産労働を無償で利用する性差別主義を、不可避的に伴い、そのイデオロギイと不可分に交差する。差別が複合的にクロスして、増幅するインターセクショナルリテイがこうしてたちあらわれる。

求めらるべきこと

入植型植民地主義を内面化して成り立つ近代社会の構造がグローバルに展開するとき、そこに地球環境危機、人種主義、性差別、民族浄化といった自然破壊、社会の分断、憎悪と暴力の連鎖が増長する複合的危機が醸成され発現する。わたしたちが直面しているこの世界の悲惨な様相は、入植型植民地主義が発動する暴力にほかならない。わたしたちに求められているのは、この入植型植民地主義が発動する暴力に抗して、多様な次元で脱植民地主義の抵抗と闘いを組織することである。

私は、今年の字を「時」とした。それは、関生支部の歴史と共に歩んできた自らの経験で、今、闘う我々を待っているのが「時」と感ずるからである。ロシアのウクライナ戦争、この戦争は先が見えない状態に陥っている。イスラエルとパレスチナの戦争では、イスラエルがパレスチナ人民の皆殺しを実行しているが、これをアメリカ帝国主義は後押しをしていて、国際社会は戦争を阻止し得ない状況下にある。シリアイエメン等の内戦(大国の代理戦争)、これは大国の思惑、大國間の対立、それに引きずられた民間人間の闘いである。